

私のおじいちゃんから学んだこと

平野 瑠奈

「社会を明るくする運動」とは、正直どういう運動かということも、私ははっきり分かってはいませんでした。あいさつをするのかな、ボランティアをするのかななど、ふわっとしたイメージしか持っていました。

私には、両親と兄がいます。休日や夏休みには旅行に行ったり、ドライブをしたりして、楽しく過ごしています。両親は仕事がある

のですが、すぐ近くにおじいちゃんとおばあちゃんの家があり、毎日のように行ったり遊んだり、食事をしたりして、自分の家と同じように過ごしています。

そんな私が住んでいる千葉県野田市には、キッチンマン醤油の工場があります。「先祖は江戸時代頃から野田市に住んでいて、キッチンマン醤油に勤めていた人が多かったのよ」とおばあちゃんに教えてもらいました。江戸時代、イヤそれよりもっと昔から、みんな

な笑顔で楽しく暮らしていたのかなとおばあちゃんの話聞いて思いました。また、昔からある有名な「つくまい」には、多くの人に参加して楽しんでいたそうで、そこでは地域のつながりや人とのつながりが深まる行事になったようです。

それが、今はどうでしょう。毎日のテレビからは、いじめによる自殺や、ロシア、ウクライナの長期に渡る戦争など、悲しいニュースが流れています。毎日楽しく過ごしてい

る私からすると、想像がつかなかったり、同じ日本に住んでいるのに、「住む世界がちがう」と思ってしまった。

そうした人と人との争いはどこか遠い世界の事ではありません。よく思い出してみると日常生活の中でも、学校生活の中でもあるのではないかと思い直しました。クラスでも、話が合わずにけんかをしてしまったり、かんちがいで言い争いになったりするなどの事がときどきあります。しかし見ているとすぐに

仲直りをしていきます。多分それは、信頼できる仲だからなのかなと思います。人と人とのつながりがあれば相手の事を許したり、自分のまちがいを認めて謝ることもしやすいのです。

私達が住んでいる地域でも同じなのだと思います。私達の地域では、近所の人達や自治会の人々が、児童の登下校の見守り活動をしてくださったり、安全パトロールをしてくださったりしています。その一人が私のおじい

ちゃんです。おじいちゃんは自治会の仕事の他に「保護司」というお仕事をしています。保護司とは、犯罪など悪い事をした人たちの立ち直りを支え、二度と同じような事をしないように話し合うという仕事です。おじいちゃんからその話を聞いた事はありませんでしたが、おばあちゃんはそんなおじいちゃんのことをとっても自慢に思っているようです。そして、「人間は生まれてきたときは、みんな可愛い赤ちゃんで、悪い人になるために生ま

来てきた人はいないのよ」と言っています。

犯罪や悪い事をした人を相手にして、立ち直らせる事はとても難しそうですが、そんなおじいちゃんはずごくかっこいいと思います。人の気持ちによりそう事ができる姿はとてもそんなけいできます。

私は、犯罪を犯す人がいなくなり、世界の人々が仲良く、楽しく、平和に、明るく生きていけるために、人と人がつながりを持ち、温かな気持ちで思いやりを持って生活する事

ができたなら、国と国の争いや戦争がなくなる世界につながっていけるのではないかと思いました。